

## 海外の人が驚く日本の日常

動画リンク: <https://youtu.be/v/LAaRqH2oU>

今回は「海外の人が驚く日本の日常」を学びながら、日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字にはふりがながあります。後半は少しだけ速く(+20%)なり、漢字にふりがなはありません。学習にお役立てください。

### ■自動販売機でホットドリンクが買える

「自動販売機」とは「自販機」のことです。日本には約270万台の自動販売機があり、そのうち、約230万台が飲料用の自動販売機です。

なぜ、日本にはこんなに多くの自動販売機があるのでしょうか。その理由の一つは、日本の治安の良さです。

自動販売機は24時間いつでも利用できますが、他の国では、破壊されたり盗まれたりするリスクがあるため、あまり普及していないこともあります。

日本では、こうした問題が少ないため、多くの場所で安心して自動販売機が設置されているのです。

特に、都市部だけでなく、地方の道や公園、山奥にまで自動販売機が置かれているのは、日本ならではの光景です。

また、日本の自動販売機が多いもう一つの理由は、便利さへのこだわりです。

人々が忙しい毎日の中で、すぐに飲み物を手に入れられる自動販売機はとても便利です。

特にホットドリンクは、寒い冬の日には欠かせません。

自動販売機の前を通りかかったとき、手軽に温かい飲み物を買って体を温めることができるのは、多くの人にとって嬉しいサービスです。

では、日本で人気のホットドリンクをいくつか紹介します。

まず、コーヒーは定番中の定番です。

多くの自動販売機では、缶コーヒーが販売されており、ブラックやミルク入り、さらには砂糖の量が調整されたものなど、さまざまな種類があります。

また、紅茶も人気です。レモンティーやミルクティーは、どちらも温かい飲み物としてよく売られています。

さらに、日本ならではの選択肢として、コーンスープもあります。

缶に入ったスープで、温かくて甘みのあるコーンスープは、軽いスナック代わりになるため、冬の寒い日に特に人気です。

日本の伝統的な和菓子に「おしるこ」がありますが、寒い冬にはこのおしるこも人気のホットドリンクです。

自動販売機で簡単に買えるおしるこは、観光客にも人気で、初めて飲む外国の方にとっては新しい体験になること間違いありません。

缶に入ったおしるこは手軽に飲める一方で、もちが入っていることで食べ応えもあります。

コーヒーや紅茶と並んで、冬にホットドリンクを選ぶ際の日本ならではのユニークな選択肢です。

おしるこを含め、いろいろなホットドリンクを自動販売機で楽しめるのは、日本の生活の一部です。

温かい飲み物を片手に、寒い冬の日でも快適に過ごすことができるのは、日本の自動販売機文化ならではの楽しみです。

ホットドリンクを買えるようにするため、もしかしたら電気をたくさん使っていると考える人もいるかもしれませんが。

しかし、もともと冷たい飲み物を適切な温度で保存するために発生する熱を上手に利用しているため、電気の無駄使いはされていません。

このような場面でも、日本の「もったいない文化」があるのかもしれませんが。

自動販売機でホットドリンクが買える理由には、こうした日本の独自の文化と安全性が大きく関係しています。

日本を訪れたときには、ぜひ自動販売機で温かい飲み物を買って、治安の良い日本の日常を体験してみてください。

#### ■電車やバスで居眠りをする

日本で電車やバスの中で居眠りをする光景は、治安の良さがあってこそ成り立つものです。

海外では、公共の場で居眠りをするのは危険な行為とされます。

財布やスマートフォンなどの所持品を盗まれたり、トラブルに巻き込まれるリスクが高いです。

しかし、日本ではこうした心配がほとんどなく、サラリーマンや学生が通勤・通学中に疲れて寝てしまうのもよく見られる光景です。

特に長時間働いたサラリーマンが電車でぐっすり眠っていたり、

学生が授業の合間に少しの時間でも休んでいたりするのは、日本の日常風景の一部です。

また、夜になると、仕事の後にお酒を飲みすぎた大人たちが泥酔して電車の中で寝ていることもあります。

居眠りしてしまっても誰かに迷惑をかけられることなく、無事に目的地に着くことができるのも日本ならではの特徴です。

こうした風景は、治安が非常に良く、公共の場でも安全に過ごすことができる日本だからこそ見られるものです。

公共交通機関の中でリラックスして眠れるというのは、日本の安心感です。

それから、周囲の人々が互いに迷惑をかけないよう気を使う文化が組み合わさった結果と言えるでしょう。

#### ■子供だけで学校へ登校

日本では、子供たちが一人で、または友達同士で学校に通う姿がよく見られます。

これも、海外の人にとってはとても驚くべきことの一つです。

多くの国では、子供が一人で外を歩くことは危険とされ、親が送り迎えをするのが一般的です。

しかし、日本では小学生でも自分たちだけで安全に登下校できる環境が整っています。

この背景には、日本の治安の良さが大きく関係しています。

犯罪が少なく、地域全体で子供たちを見守るという意識が強いため、親たちは安心して子供を外に送り出すことができます。

地域によっては、「見守り隊」と呼ばれるボランティアが通学路に立って、子供たちが安全に登下校できるようサポートしています。

また、日本では小学校低学年から自立心を育てる教育が行われています。

子供たちは早い段階から自分でできることを増やしていく習慣がついています。

たとえば、ランドセルを背負って一人で電車やバスを利用したり、信号を守って道を渡ったりすることが当たり前となっています。

これも、日本の安全で秩序のある社会があってこそその光景です。

子供たちが自分の足で通学し、地域の大人たちが見守る姿は、まさに日本ならではの安心感と信頼に基づく文化と言えるでしょう。

#### ■卵かけご飯

卵かけご飯は、日本のシンプルで人気のある伝統的な食事の一つです。

名前の通り、ご飯に生の卵をかけ、しょうゆを少し垂らして食べるものです。

作り方はとても簡単ですが、その美味しさと栄養のバランスから、多くの日本人に愛されています。

海外の人にとって驚きなのは、「生卵を食べる」という点です。

多くの国では、生卵を食べることが危険だとされていますが、日本では卵の衛生管理が非常に厳しく、卵は安全に生で食べられるのです。

特に「卵かけご飯専用の卵」も販売されており、品質が保証されています。

卵かけご飯は、朝食として食べられることが多く、忙しい朝でも手軽に栄養を摂れるため便利です。

また、各家庭によってアレンジがあり、ネギやノリをトッピングしたりします。

他にも、バターを加えてコクを出したりと、さまざまな食べ方が楽しまれています。

日本の家庭料理として親しまれている卵かけご飯は、シンプルながらも深い味わいがあり、日本の食文化を感じさせる一品です。

もし日本を訪れる機会があれば、ぜひ試してみてください。

このシンプルな料理には、日本の食に対するこだわりと安全性が詰まっています。

最近では、日本以外の国でも生卵を食べる文化が少しずつ広がりつつあります。

たとえば、台湾のスーパーでは、少し値段が高いですが、生で食べても安全な卵が販売されています。

これも、日本の「卵かけご飯」や生卵を使った料理の影響を受けていると言えるでしょう。

台湾でも、卵かけご飯のように生卵をそのままご飯にかけて食べるスタイルが徐々に人気を集めています。

生卵を食べるためには、非常に高い衛生基準が必要です。

日本では卵の流過程で厳しい検査や管理が行われており、そのおかげで安心して生卵を食べることができます。

同様に、台湾でも同じような基準が取り入れられ、生で食べられる卵が販売されています。

これにより、台湾でも日本のように卵かけご飯を楽しむことができるようになりました。

日本の卵かけご飯のシンプルさと美味しさは、海外でも少しずつ注目されており、今後もその影響は広がっていくかもしれません。

日本を訪れたときには、ぜひ安全な生卵を使った料理を試してみてください。

#### ■サインよりもハンコを使う

日本では、書類の署名にサインではなく「ハンコ(印鑑)」を使う文化が根強く残っています。

ハンコは日本の伝統的なサイン方式で、銀行口座の開設や契約書、役所の手続きなど、さまざまな場面で使用されます。

外国の人にとって、ハンコを使うことは非常に珍しく、驚く文化の一つです。

多くの国では、書類を正式なものとするために署名が求められますが、日本では個人のハンコを使って書類に印を押すのが一般的です。

特に重要な書類には、朱肉を使って「実印」と呼ばれる正式な印鑑を押すことで、法的な効力が認められます。

実印は役所に登録する必要があるため、個人の証明としての役割を果たします。

ハンコは大人になると一人一つ持つのが普通で、苗字が彫られたものが多いですが、デザインや素材もさまざまです。

最近では、100円ショップや通販で簡単に購入できるものから、オーダーメイドで作る高価なものまで幅広く選ばれています。

しかし、最近では日本でもデジタル化が進み、ハンコを使わずに電子署名やサインでの手続きが増えてきています。

それでも、ハンコは日本の文化やビジネスにおいてまだ大切な役割を果たしており、日本の伝統的な一面を知ることができます。

もし日本に住んだり仕事をしたりすることになった場合、ハンコを作る経験をするかもしれません。

それは、日本ならではの興味深い文化体験の一つです。

#### ■雨の日にデパートで買い物をすると紙袋にビニールをかけてくれる

日本では、雨の日にデパートで買い物をすると、紙袋にビニールをかけてくれることがよくあります。

これは、買った商品や紙袋が濡れないようにするための心遣いで、日本のサービスの細やかさを象徴する一例です。

外国の方にとっては、こうした配慮はとても驚くポイントであり、日本の「おもてなし」の精神を感じる瞬間です。

紙袋は、特にデパートやブランドショップでよく使われますが、雨に濡れると破れやすくなったり、持ちにくくなったりします。

そのため、店員さんが購入品をビニール袋で覆ってくれるのです。

店のスタッフは、雨が降っていることに気づくと、自然にビニールを用意してくれます。

わざわざ頼まなくてもこのサービスを受けることができます。

このようなサービスは、日本の高い接客水準の一環であり、お客様が快適に買い物できるように工夫されています。

また、ビニールをかけるだけでなく、傘を持っているお客様には、傘用のビニールカバーを差し出してくれるお店もあります。

これは、店内に雨水を持ち込まないための配慮であり、細やかな気配りが感じられます。

こうした心遣いは、日本のサービス業において非常に重要視されています。

客としても安心して買い物ができる点が、日本を訪れる外国の方にも高く評価されています。

もし日本で買い物をする機会があれば、このような特別なサービスに注目してみてください。

日本ならではの細やかな「おもてなし」を体験することができるでしょう。

#### ■飲食店で水が無料なこと

日本の飲食店では、ほとんどの場合、水が無料で提供されるのが一般的です。

海外の多くの国では、レストランで水を頼むと有料で提供されることが多いです。

しかし日本では、席に着いたと同時に無料で水が運ばれてくるのが当たり前です。

これも、日本を訪れる外国の方にとっては驚きの一つです。

日本では「お冷(おひや)」と呼ばれる冷たい水がよく提供されますが、季節によっては温かいお茶が出されることもあります。

特に寿司屋や和食のお店では、温かい緑茶が無料で提供されることがよくあります。

これも、お店のサービスの一環であり、飲み物を注文しなくてもお冷やお茶がいつでも飲むことができます。

追加の費用がかかることなく食事を楽しむことができます。

さらに、飲み物がなくなりそうになると、店員さんが気づいてすぐにお水をつぎ足してくれることも多く、細やかなサービスが徹底されています。

このような無料の飲み物提供は、日本の飲食店の「おもてなし」の一環として、多くの人に評価されています。

海外では、特に瓶入りの水を注文すると料金がかかるのが普通ですが、日本では気軽に水を飲むことができます。

そのため、食事を楽しむ際にも余計な心配をする必要がありません。

もし日本の飲食店を訪れる機会があれば、この無料の水やお茶のサービスをぜひ体験してみてください。

日本独特の文化とサービスの違いを感じることができるでしょう。

#### ■学校の掃除を生徒がすること

日本の学校では、掃除を生徒自身が行うという文化があります。これは、海外の人々にとって非常に驚くべきことの一つです。

多くの国では、学校の掃除は専任の清掃スタッフが行うのが一般的です。

しかし日本では、小学校から高校まで、毎日の掃除が生徒たちの役割とされています。

この習慣は、単に教室や校舎をきれいに保つためだけではなく、

生徒たちに「責任感」や「協力する心」を育むための教育の一環として行われています。

自分たちが使う教室やトイレ、廊下を自分たちできれいにすることで、物を大切にできる気持ちや、他の人のために環境を整える大切さを学ぶのです。

掃除の時間は通常、授業の後や昼休みの後に行われます。

ほうきやモップ、雑巾を使って、教室だけでなく校庭や体育館、トイレなども生徒たちが分担して掃除します。

生徒たちはクラスごとにチームを作り、協力して掃除を進めることが一般的です。

教師も生徒たちと一緒に掃除をすることが多く、生徒と教師が一体となって学校をきれいに保つという共通の目標を持っているのが特徴です。

このような活動を通して、学校全体が一つのコミュニティとして協力することの大切さを学ぶことができるのです。

日本の学校での掃除は、ただの作業ではなく、教育の一部として長年続いている伝統です。

この文化は、日本人の清潔さや秩序を大切にする姿勢の一端を示しており、外国の方にとっても興味深い日本の学校生活の特徴と言えるでしょう。

#### ■ドアは開けたら閉める

日本では、「ドアを開けたら閉める」という習慣がしっかりと根付いています。

これは当たり前のマナーとして、多くの人が日常的に実践している行動です。

たとえば、家やお店の入り口だけでなく、電車やバスの扉、エレベーターのドアなど、あらゆる場面でこの習慣が見られます。

この「ドアを開けたら閉める」という行為は、単に次に使う人のためだけでなく、エネルギーの節約や安全のためでもあります。

冬の寒い日や夏の暑い日には、冷暖房の効率を保つためにドアを閉めることが特に重要です。

また、風が強い日には、ドアを開けっぱなしにしておくとも物が飛んだりして危険です。

こうした習慣は、他の人に対する配慮や、環境を守る意識の一環として自然に身についているものです。

日本では、小さなころから「ドアを開けたら必ず閉める」ことが親や教師によって教えられます。

このような習慣があるおかげで、公共の場でもドアが開けっぱなしになることはほとんどなく、きちんとした環境が保たれています。

外国の方にとっては、こうした「ドアを開けたら閉める」という習慣は新鮮に映るかもしれません。

しかし、日本ではこうした小さなマナーが日常生活の中で大切にされています。

もし日本を訪れる機会があれば、このシンプルでありながら大切な習慣を意識してみてください。

日本人の細やかな気遣いや配慮を感じることができるでしょう。

たとえば、多くの国では、公共のトイレでは使っていないときにドアが半開きや完全に開いていることが一般的です。

これは、トイレが空いていることをわかりやすく示すためです。

使っているかどうかを確認するために、わざわざノックしたり、ドアを引いたりする手間を省くために、空いているときはドアを開けておく習慣があります。

逆に、使用中はドアを閉めて鍵をかけることで、他の人に「使用中」であることを知らせるのが普通です。



海外、特にアメリカやヨーロッパの公共トイレでは、トイレのドアに関して日本ほど厳密にプライバシーが守られていないことが多いです。

たとえば、トイレのドアと床の間に大きな隙間があることがあり、足元が見えるデザインが一般的です。

また、ドア自体にも上部に隙間があり、完全に閉まることはほとんどありません。

この設計は、安全性や利便性のためであり、万が一の緊急事態に他の人が気づきやすいようにするためと言われています。

しかし、初めて海外のトイレを使う日本人にとっては、こうした隙間は不安や不快感を感じることもあるかもしれません。

日本の公共トイレでは、基本的にドアは床から天井までしっかりと閉じられる個室スタイルが一般的です。

ドアはきっちりと閉まり、隙間もほとんどありません。

日本では「プライバシー」を非常に大切にする文化があるため、トイレの個室はできるだけ他人の目を気にせずに使用できるよう設計されています。

日本の場合、公共トイレも家庭のトイレも、使っていないときは基本的にドアを閉めておくことが一般的です。

特に公共トイレでは、空いているかどうかはドアの外側にある鍵の表示（「空き」「使用中」など）や、ノックをして確認することが普通です。

また、家庭内でもトイレのドアは基本的に閉めておく習慣があります。

#### ■冷たすぎるビール

日本では、ビールを非常に冷たくして提供するのが一般的です。

特に、居酒屋やレストランでは、キンキンに冷えたビールが好まれ、多くの人がビールはできるだけ冷たいほうが美味しいと感じています。

ビールの温度は0度近くまで冷やされることがあり、ジョッキやグラスも事前に冷やしておくことが一般的です。

外国の方にとって、日本のビールの冷たさは驚きの一つかもしれません。

特にヨーロッパの国々では、ビールをそこまで冷やさないことが多いです。

ヨーロッパの一部の国では、ビールは少し温かめの温度で提供されることもあり、ビール本来の風味を味わうために適度な温度で提供されるのが一般的です。

そのため、日本のビールの冷たさは、特にビール愛好家にとっては驚きのポイントになることが多いです。

この冷たさは、日本の気候や文化とも関係があります。

日本の夏は非常に蒸し暑く、そのため冷たいビールが体を冷やしてくれるという感覚が喜ばれるのです。

居酒屋では、暑い日差しの下から入店して、一杯目に冷たいビールを飲むのが最高のリフレッシュ方法として定番です。

また、ビールを冷たくして飲むことで、炭酸がより際立ち、シャープでさっぱりした飲み口を楽しむことができる点も、日本で冷たいビールが好まれる理由です。

もし日本に来たときには、ぜひこの「冷たすぎるビール」を試してみてください。

暑い夏の日には特に、キンキンに冷えたビールが最高の一杯になること間違いなしです。

#### ■デパ地下～食のテーマパーク

日本の「デパ地下」は、まるで食のテーマパークのような場所です。

「デパ地下」とは、デパートの地下にある食料品売り場のことです。

日本全国の有名な食品や高級食材、スイーツ、惣菜などが一堂に集まっています。

多くの人が「デパ地下」に行くと、その豊富な食の選択肢や高品質な商品に驚かされると思います。

「デパ地下」の魅力の一つは、その品質の良さです。

デパートに入っているブランドやお店は、厳選された商品を提供しており、特に素材や味にこだわったものが多いです。

お惣菜やスイーツは、プロの職人が手掛けるものも多く、見た目も美しく、一品一品が丁寧に作られています。

そのため、「デパ地下」で販売されている商品は、高級感があり、特別な日や贈り物としても人気があります。

また、「デパ地下」では、よく試食が提供されていることも特徴です。

あちこちのブースで、「お一つどうぞ」と店員が試食をすすめてくれ、訪れる人はさまざまな食品を味見することができます。

これを楽しみに訪れる人も多いです。

お寿司やお肉、フルーツ、スイーツなど、さまざまなジャンルの食品を少しずつ味わいながら、実際に購入する商品を選ぶ楽しさがあるのです。

ただし、価格がやや高めという点もあります。

特に、高級食材や有名店のスイーツは、一般的なスーパーやコンビニで買うよりも高価です。

しかし、その価格に見合うだけの品質と味が提供されているため、特別な日や自分へのご褒美として購入する人が多いです。

「デパ地下」は、まさに「食のテーマパーク」であり、食に興味のある人にとっては見逃せない場所です。

試食を楽しみながら、ちょっと贅沢な食材や美味しい惣菜を選ぶ体験は、日本独特のデパート文化を味わうことができるでしょう。

もし日本に訪れる機会があれば、ぜひ一度「デパ地下」に足を運んでみてください。

#### ■カフェやレストランで物を置いて席をとる

日本では、カフェやレストランで席を確保するために、自分の持ち物を置いて席を取ることがよくあります。

これには、バッグやコート、さらにはスマートフォンやノートパソコンなどの貴重品も含まれます。

外国の方にとっては、この行為は驚くことかもしれません。

なぜなら、多くの国では、貴重品を置いたまま席を離れることは危険だと考えられ、盗まれるリスクが高いからです。

この「物を置いて席を取る」という行為が日本で可能なのは、日本の治安の良さが大きく関係しています。

日本では、他人の持ち物を盗むことは非常に稀であり、カフェやレストランで物を置いて席を確保することが安全だと感じられています。

多くの日本人は、この習慣を当然のように受け入れており、他人のものを盗む人は一部の悪い人を除いてほぼいません。

また、邪魔だからといって人の物を勝手に触って動かすようなこともまずしません。

特に混雑したカフェやファストフード店などでは、席を取るために先に持ち物を置いておき、その後注文をする光景が一般的です。

バッグやコートなどの個人の持ち物を置いておくことで、その席がすでに使われていることを周囲に知らせる効果があります。

中にはスマホやPCをテーブルの上に置いたまま、しばらく席に戻らない人もいます。

個人的にはさすがにそれはちょっと危ないと思ったりしますが、そういう人もいるくらい日常的な光景です。

ただし、このような行動はあくまで治安の良い日本だからこそ可能であり、全ての場所で安全だとは限りません。

特に、外国から日本に来た人は、最初は驚くかもしれませんが、日本では安心してこの習慣が行われていることに気づくでしょう。

それでも、大きな混雑や観光客の多い場所では、物を置いて席を取ることにに対して慎重な人もいます。

リスクを感じる場合は、貴重品を身につけたままにしておくのが安心です。

私の場合は、盗られても「仕方がないか」とあきらめられるものしか置かないようにしています。

日本独特のこの習慣は、治安の良さや相互の信頼に支えられています。

カフェやレストランでのリラックスした時間を過ごすための一つの文化的特徴と言えるでしょう。

「海外の人が驚く日本の日常」はいかがでしたか。

コメント欄から感想をみんなに教えてください。

それでは、また別の動画でお会いしましょう。



**Japanese-listening-SUSHI**

